



私の傑作



「ボリビアの岩山のふもとに」

平見 尚隆

香川大学 教授・  
広島大学 客員教授

ボリビアと聞いて思い浮かぶのは、アンデス山脈の高地に広がるウユニ塩湖や、ペルーとの国境にあるチチカカ湖といった、標高の高い風景ではないだろうか。しかし、視線を東に向けると、標高は一気に下がり、ラパスに次ぐ第二の都市サンタクルスが姿を現す。そこからさらに東へ、陸路でおよそ十時間進んだ先に、チョチス (Chochis) という小さな村がある。この村には、「ダビデの塔 (Torre de David)」と呼ばれる、バベルの塔を思わせる赤褐色の岩山がそびえ立つ。その周辺は深い緑に包まれ、オニオオハシ (Toco Toucan) の生息地としても知られている。この写真は、そのダビデの塔を背景に、仲睦まじく枝にとまる一対のオニオオハシを捉えた一枚である。